

# 再編計画策定は来年の夏休み前にしたい

## 県教委事務局の報告内容

- \* 策定の目途は、平成24年度の夏休み前。内容については長浜・彦根両市からの提案なども入れて見直し案を決めていく。
- \* 統合（長浜と長北、翔陽と彦西、甲南と信楽、瀬田工と瀬田）については校名決定、条例改定などの関係で実施時期を（平成27年度以降に）繰り延べざるを得ない。
- \* 統合以外の再編については、できれば実施計画通りにやりたいが、今後見直し案を策定する中で実施年度を決定していく。
- \* 特別支援学校については、今回の延期と切り離す。特別支援学校の大規模化対応は、高校再編に入っているものも含めて今年度中に策定。

県教委事務局は、延期の理由として「新校の具体的なイメージが示せていない」と「後輩がいなくなる不安」しか挙げませんでした。説明会等で出たたくさんの疑問には一切言及しませんでした。さすがに委員からも次のような意見が出されました。

「不安を与えたのはその2点だという認識でいいのか。スタートラインを間違えないように。中身の分析のないまま1年延ばすだけではまた同じことの繰り返しになってしまう。」

「統合を含む再編が必要だという県民の合意があるという前提がなければ、来年の6、7月に策定するのは無理ではないか。策定期間が自己目的化しないように。」

「原案でいいと思っていたが、県民の意見を聴く中で県教委としても反省すべき点はあった。」

## 募集定員発表！

現1年生比	1 増	北大津・玉川・守北・野洲・栗東・八幡・北星
	1 減	高島
現3年生比	2 増	栗東・八幡
	1 増	北大津・東大津・草津・守北・野洲
	1 減	高島・草津東・甲西・彦工

## 生徒数増に見合うクラス増せず！

## 統廃合の先取りか！？



### 【問題点】

- 1 学級の定員を40人としたことは大きな問題
- すでに、21都県が高校でも少人数学級に踏み出している情勢
- 進学志望者が422人増えるのに、6学級増では不合格者が多く出る
- 中学卒業予定者のうち約75%が、県立全日制高等学校に進学している実績を考えると8~10学級増が必要。不合格者は、県内外の私立高校や定時制・通信制高校に進まざるを得なくなる。
- 6学級増に抑えた理由の一つに「定員未充足」をあげている

## ストップ高校統廃合速報 2011年度第29号

### 2011/11/9 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)

11月9日に開かれた県教育委員会で、同事務局は「県立高校の再編計画」に関する報告を行いました。同日、「県立高校の統廃合を考える会」は次の声明を発表しました。

「県立高校の再編計画」に関する  
県教育委員会事務局の報告について(声明)

統合部分は2015年度に実施する 他は予定通り

本日、定例教育委員会で県教委事務局は「県立高校の再編計画」に関する報告を行いました。内容は次の通りです。

再編計画は2012(平成24)年の夏休み前までに策定する。策定に当たっては、彦根・長浜両市からの提案も入れて決めていく。定時制・総合単位制や学科再編の中身は引き続き検討する。再編のうち、統合部分(長浜北高と長浜高の統合、彦根西高と彦根翔陽高の統合、信楽高の甲南高校への統合、瀬田高を瀬田工業高に吸収)は、実施時期を予定より1年遅らせて2015(平成27)年度にする。他の部分は予定通り実施の方向。特別支援学校の大規模化対策(分教室、高等養護を含む)の計画は今年度中に策定する。

私たちは、この報告を、到底認めるわけにはいきません。

地域住民と関係市町の思いをないがしろ

報告は、まず地域住民と関係市町の思いをないがしろにしています。7月11日に、再編計画原案が発表されて以来、長浜でも彦根でも信楽でも、住民の思いを受けて、議会も議論を尽くし「地域の学校を存続させる」合意が出来あがっていきました。再編案の白紙撤回を求める署名は、瞬間に6万筆を超えました。道理ある住民の意見は、県教委の統廃合の根拠を崩し、県教委はまともな説明が出来ずに、保護者住民の疑問は深まるだけでした。県には、この住民の深い思いを受け止める姿勢が見られません。

県議会をもないがしろ

報告は、さらに県議会をもないがしろにしています。10月12日、県議会は「県立高校の再編に関する決議」を全会一致で採択しました。この決議

は「県民や市町の理解を得ることなく事を進めれば子どもと地域の将来に禍根を残す。慎重な検討と生徒や県民への説明、理解を十二分に得よう...今年度内の計画策定という方針に拘泥することなく、少なくとも今後1年以上の時間をかけ...」と、時間をかけた慎重な検討を求めています。県教委事務局は「彦根市や長浜市からの提案も受けて検討する」としてはいますが、「長浜北高、彦根西高の存続」が提案されても、受け入れるのか極めて疑わしいものです。「少なくとも今後1年以上の時間をかけ」る気は全くありません。県教委は「大幅な統合再編」の方針を撤回していません。

県の姿勢は域住民とも教育委員とも食い違う

今回の報告で、県教委事務局は、計画を一部延長したのは「新校の具体的なイメージと後輩がいなくなる事への不安に対する支援が示せなかった」からだとなりました。これに対して、委員たちからは「その認識でいいのか、深い分析が必要だ。再編は必要だ」という県民合意が出来ていなければ、夏休み前の策定は無理ではないか。策定期間だけを自己目的化しないように」「県民のみなさんの意見を聞く中で県教育委員会として反省すべき事があった」との意見が出ました。ここにも、県教委事務局の姿勢が、いかに地域住民の思いとかけ離れ、また教育委員の思いとも食い違っているかが示されています。

さらに新しいたたかいが

今回の報告は、地域住民の思いを受け止めるものではなく、地域からまた新しいとりくみが始まるにちがいありません。11月29日から始まる県議会でも、こうした県のやり方への疑問や意見が噴き出すにちがいありません。

私たちは、滋賀県の隅々に広がりつつある「地域と学校を大事にする」県民の流れと合流し、統廃合計画案の白紙撤回と根本からの再検討をもとめて、運動を強めるものです。

2011年 11月9日

県立高校の統廃合を考える会